



「お住まいの塗り替えにお役に立つ情報を毎月発信しています！」

ニュースレター

おまかせください！！

2014. 第 77 号



いつもお読みいただきありがとうございます。三商事(さんしょうじ)の上神谷(かみかべや)です。

先日、少し寂しい出来事がありました。というのも、10年間お世話になった私の愛車を手放したのです。



トヨタのシエンタ。ぼくの4代目の自家用車でした。

この度、諸般の事情により私の手元を離れていくことになりました。改めて、こう書いていると、本当に寂しいですね。

思えば10年前、上の子が産まれた少し後に購入しました。当時は、スプリンターマリノという、今ではほとんど見かけない車に乗っていました。

子供をチャイルドシートに乗せる時には、まあ乗せづらい、乗せづらい……。車高が低いからです。

(↓ スプリンターマリノ)



今度買うのは絶対ミニバン！そう決めていました。でも、その上のクラスのノアやセレナとかまでは手が届かなくて……。

結局、ホンダのモビリオと争った結果、シエンタに決めました。

このシエンタ。10年間で走った距離は29,000km弱……。走行距離としては少ないですね。ほとんど遠出はしませんでしたから。

一方のマリノは、それこそ独身の時と結婚当初の車でしたから、結構走りましたよ。スキーに行った時などは、追突してしまいましたっけ……。それと、前職の通勤にも使っていましたね。通勤途中、ニュータウン通りでも追突したり、松が谷トンネル付近ではホイールキャップ落とししたりして

いましたっけ・・・。

それに比べて、シエンタは子供が生まれてからの車。だから、頻繁に遠くへ行くことはほとんどありませんでした。上の子は10歳と大きくなりましたが下の子はまだ2歳・・・また出掛けられない状態になりましたしね・・・。

でも、それはそれで別にいいんです。とにかく、小さい子連れでのお買い物等に本当に助かりました。ほとんどそれに従事した10年間だったと思います。

ボンネットの塗装（クリアーの部分）がひび割れていくようにパラパラ・・・となって、全体的にも色ムラが出来ていったマリノに比べて、掃除もろくにしておげられなかったシエンタですが、すごく綺麗に状態が保っていたと思います。施されている塗料も良くなってきていると聞いたこともあります。

なごりはつきませんが・・・別れの日、家族4人で記念写真を撮りました。本当にお世話になりました。また違う、誰かの役に立って行ってくれるといいと思います。

10年間ありがとうございました・・・。



お世話になっております。
長坂利昭です。
今号もお読み頂きありがとうございます。

■子供の成長・・・

3月末に5歳となった長女ですが、5月中ごろのこと。

「下の歯がぐらぐらしてきた」と。

そうなんです。歯の生え変わる年齢になってきたんですね。

もちろん、皆さんも私もそういう経験をして成長をしてきたはずですが、大人に成長すると、そんなことはすっかり記憶の箱の奥深くにしまい込まれていて・・・。

「そうだよな・・・生え変わるんだよな」
改めて、人の成長の過程を認識する事が出来ました。

それから10日ほど経過し、その歯は、幼稚園で遊んでいる時に無事抜けました。

生え変わることに對して、怖さや嫌だと思ふことはない様で、友達、先生、親類へ聞かれてもいないのに、「抜けた！抜けた！」

と報告しまくっていました(笑)

■抜けた歯は・・・

ところで、皆さんが子供の時、抜けた歯をどうされていましたか？

私が子供の頃は、上の歯が抜けたら縁の下へ。下の歯が抜けたら屋根へ。「鬼の歯と取っ換えろ！」とか何とか言って、投げた記憶がありますが・・・。

今は違うんですね。大事に保管をしておく人が多いらしいです。保管用のケースも多種多様販売されています。

妻と娘は、やはり残しておきたいらしく、先日、箱を購入していました。

私としては、自分がしてきた古くからの風習、慣習を受け継いでいきたい考えなのですが、時代と人が変われば風習、慣習も変わるということで・・・。

まあ、最近の家の構造から考えれば、縁の下なんてありませんし、屋根も大概は下から歯を投げて届くような高さにありませんから、「縁の下へ」「屋根へ」投げようとしても出来ない世の中と言った方が正しいのかもしれませんがね。

とは言え、そういう文化があったことは、きちんと伝えていく使命があると思いますので、やっと歯の生え始めた次女にも、後々話していきたいと思っています。



■モルタル外壁・・・

話しは変わりますが、塗装のお話です。

以前、この紙面で、外壁材の「サイディング」について触れたことがありますが、今号では、もう一方の主流工法「モルタル外壁」について書いてみたいと思います。

サイディングが登場する以前からあるこのモルタルの外壁。

簡単な説明を加えるとすれば・・・セメントと砂を混ぜて、壁となる部分に塗り、乾かしたのち、その上から骨材（細かい石など）を混ぜた塗料を吹き付けて仕上げた外壁の事を言います。



(↑モルタル外壁リシン吹き付け仕上げ)

十数年前からは、吹き付けの仕上げだけではなく、「ジョリパット」という商品に代表されるような、コテやローラーで模様を付けて仕上げるような工法も出てきました。



(↑ジョリパット仕上げ。“塀”ですが・・・)

すっきりとした仕上がりになる吹き付け仕上げ、多彩な模様を表現出来、個性を出せるジョリパット仕上げ。

色々な選択肢があることは良い事ですが、何を選択したとしても、必要になってくるのが、塗り替え。塗装作業です。

■塗装作業が必要なわけ・・・

このモルタル外壁。年数を重ねるとモルタル自体の収縮や地震などの外的要因で、細かなクラック（ひび割れ）が、かなりの確率で発生します。

また、表面がザラっぽく、細かな凹凸がついているので、砂ぼこりなどの汚れが付着した際に、流れ落ちにくいだけでなく、コケやカビも繁殖しやすいというデメリットがあります。

府中市はまだまだ畑も多いですし、緑の多い公園もたくさんある地域ですから、影響を受けているお宅が多い印象を受けます。



これらの状況を放っておくことは、家にとっては、当然良いことではありません。クラックからの水のしみ込みは、外観を美

しく保つ以前に、家自体を傷める原因ともなりますし。

これらのマイナス要素を補うのが、塗装工事であり、定期的に行なっていれば、クラックは最小限にとどめられますし、汚れもあまり目立たない“綺麗なお家”を保つことが出来ます。

外壁を艶のある塗料で塗り替えをする事によって、表面が滑らかになり、汚れは付きにくく、落ちやすくなる。また塗料には防カビ、防藻効果がありますので、コケやカビの付着、繁殖を抑える効力が復活するのです。

逆を返せば、「クラックが目立ってきた」「壁が緑色になってきた」となれば、今の塗料が効力を失っている状況ですから、塗り替えの時期とも取れるわけです。

長期間、効力の切れたまま放置しますと、塗装工事では手におえない事になる可能性もありますし、仮に塗装で対応出来たとしても、より多くの手間が必要となり、お値段に反映する事もあります。

このような現象が見受けられましたら、出来るだけ早めに、外壁塗装のご検討を始められた方がよろしいかと思います。

発行者 上神谷裕治（かみかべやゆうじ）

記事 上神谷裕治、長坂利昭

住所 府中市紅葉丘1-1-15

TEL、FAX 042-365-1402

または 090-1504-8833

ホームページ <http://www.sanshouzi.com/>

ブログ <http://sansyouzi.blog73.fc2.com/>

